

インタビュー

邑楽町文化財保護調査委員

大塚孝士さん
(十三坊塚・6区)



松本古墳群の墳墓は、足利市付近の山の岩石、渡良瀬川の河原石を使用して盛り土をしています。ですから、当時この付近は渡良瀬川が流れていたと推測できます。また、一部の出土品は町の重要文化財に指定されています。ふだん縁遠いと感じる文化財。町内には、古墳からの出土品をはじめ多くの文化財が存在しています。

松本古墳群は、古墳群を形成している点特徴的であり、現在比較的大きく残っています。また、三方を広い豊かな稲作地域に囲まれた石打台地上には東西1キロ、南北に300メートルの範囲に古墳が分布し、東毛地区の古墳群としては、もつとも保存状態がよく、6世

東毛地区でも有数の古墳群

「豊かな稲作地域に形成された松本古墳群」

太田市にある天神山古墳や女体山古墳といった巨大な古墳が存在していることや、発掘された出土品の形状から、この地方にも身分の高い豪族がおり、畿内を根拠とする大和朝廷と強いつながりがあったものと推定されます。なぜなら、この時期は大和朝廷が国内を統一した時期にあたり、その勢力圏が南は九州から北は東北地方の一部まで及んでいたからです。このような国内統一

なぜ古墳が存在するのか

「大和朝廷との強いつながりがあった」

古代史の謎に迫る

街角特派員

松本古墳群の謎に迫ります

岩松雄志
(大根村琵琶首・10区)



私自身も松本古墳群に関しての知識は皆無でした。だからこそ知りたい。そして、幼いころに出会った古代の歴史を、あのことと同じ好奇心で、探求したいと思いまし。今回の街角特派員レポートを通して、一人でも多くの人たちに松本古墳群という町を代表する「古代の歴史」があるということを知ってほしいです。

謎は深まるばかりだった：きっかけは、幼いころに出会った「謎」

皆さんは、この邑楽町に数多くの古墳や遺跡があることをご存知ですか。町の資料で調べてみると、かなりの数の古墳や遺跡ですが、この町には存在していたようす。私が古墳の存在を知ったのは、20年以上前、松本公園付近の林で虫取り

に夢中になっていたときに、たまたま、林の中で発見した古墳群の標識からでした。当時の私は、それが何かはもちろん、文字すら読めませんでした。正直、今でも当時と同じように、この場所に古墳があつて、それが何であるのかまでは知りません。約30年育ててもらった町の歴史を少しでも知りたい、皆さんにも知ってもらいたい、そして、その歴史を後世に伝えたいと思い、今回の街角特派員レポートのテーマを古墳にしました。

テーマの場所は、幼いときに見つけた松本古墳群。この位置にどうしてこれだけの古墳が集中しているのか、古代の邑楽町は、どのような状況だったのか、発掘された出土品はどういったものなのかなど、幼いころの遊び場をゼロの知識から、あのことの探究心で、調べてみたいと思います。

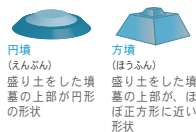


町指定の重要文化財や史跡には、標識と説明板が設置されています。松本古墳群の9～13号古墳は町指定史跡。文化財は、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観、伝統的建造物群に区分されています。



自分の住んでいる
邑楽町の歴史の謎を
解き明かすのって
何だか素敵に思いませんか。
その答えを誰かに
教えることができたなら
もつと素敵だと思いませんか。

目で見える古墳解説
古墳とは何だろう？
古墳 3世紀後半から7、8世紀にかけて作られた地方豪族の墓。古墳は盛り土で作られ、内部に埋葬施設や副葬品があるものとされています。豪族は、大きな墓をつくり、多くの豪華な副葬品を埋葬することで、権力を誇示しようとした。主な古墳の形態は、前方後円墳・円墳・方墳などが代表的です。



文化財保護法の規定により、古墳などにある埋蔵物は、そのままの状態、つまり地中に埋まったままの状態、保護・保存しなければならぬ、ということになっています。その土地が開発され、現状のままの保存が、どうしてもできない場合などに限り、国の認可を得て発掘調査(学術調査)が可能となり、記録・保存されます。そして、学術調査内容は公開され、活用されるのです。

すべて発掘可能なのか

そこには文化財保護法という壁があった

紀から7世紀初頭にかけて築造された円墳を中心に、現在は24基残っています。発掘調査(学術調査)が行われたのは、中野字毘沙門の国道122号沿いにあった古墳(22号古墳)、通称毘沙門古墳と、中野字大根村の国道122号の大根村交差点から西へ100メートルほど行ったところの、現在は自動車販売店がある場所(23号古墳)でした。現在、松本古墳群の内9・13号古墳は町指定史跡に、23号古墳などから出土した遺物は、町指定重要文化財に指定されています。

子どもたちの間では、呪いの噂がささやかれていた 少年時代の追憶

インタビュー



大野芳明さん
(石打・20区)

松本古墳について少年時代の記憶を語ってもらいました

学校の帰り道、いつも松本公園で友達と探検しつづけていました。それくらい子どものころは、身近にあった遊び場所でした。当時私たちの小学校では、大根村交差点の道が広がらないのは、古墳があるのだ、工事をするといわれてしまつたという噂が、まことしやかにされていたくらいです。だから、噂にのぼつた古墳から町指定の重要文化財の大力が出たしたなんて、正直おどろきました。自分の住んでいる町にも知らないことが、まだまだたくさんあるんだ。これを機会に、少しでも自分の町のことを知ろうという気持ちになりました。大人になって足が遠のいてしまつた松本公園にも、久しぶりに行ってみたいと思っています。

銀象嵌大刀

ぎんぞうがんだいとう

町指定重要文化財 松本23号古墳 出土

松本23号古墳から出土した大刀には、鐔（つば）・はばき（鐔を刀身に固定する金具）、柄縁（つかふち）金具、鞘尻（さやじり）金具に銀象嵌の装飾が施されていました。銀象嵌は鉄の表面にくぼみを作り、銀をはめ込んで文様を出したものです。このように装飾された大刀には、地域支配のための軍事指揮権の象徴として大和朝廷政権から下賜（かし）された儀式に用いる装飾的な刀という性格がみられます。

板倉町筑波山（前方後円墳）からは、これよりやや古いと思われるものが出土しています（7世紀で、聖徳太子の時代）。また、栃木県の小山市飯塚古墳群の中に象嵌例が多くみられ、象嵌大刀を代々副葬品として埋葬する家系が存在するという指摘もあります。

ワンポイント！
目で見える銀象嵌の輝き
よみがえった古代の輝き

事前調査でX線撮影したところ、大刀の鐔・はばき・柄縁金具と単体で出土した鞘尻から、象嵌が検出されました。象嵌は白色で磨とえられ、文様は渦巻文です。発掘直後は、とてもさびついていたが、東京国立文化財研究所で、レーザー光線を使った象嵌表出の作業により、古代の輝きを取り戻すことができました。

古墳番号 悠久のときを超えて蘇りし
いにしへの剣が出土した古墳

松本23号古墳

（大根村琵琶首・10区）



DATA ▶形体 円墳
▶大きさ 直径12m、高さ1.8m
▶備考 発掘調査で、町指定の重要文化財になった銀象嵌大刀（ぎんぞうがんだいとう）、金銅製耳環2個、鍬4本などが出土

↑平成元年に行われた発掘調査風景

松本23号古墳は、中野宇大根村交差点から、西へ100メートルほど行ったところで、現在は自動車販売店があります。古墳の大きさは、直径12メートル、高さ1.8メートルでした。昭和13年の「上毛古墳総覧」では、「大キサ四〇尺、高サ七尺の円墳」とあります。

記録保存のための発掘調査が平成元年に行われ、その結果埋葬施設は横穴式石室で、玄室（遺体を置くところ）の形は小判形。また、石室の構築方法は渡良瀬川の河原石を粘土と小さめの河原石で押さえ、それを粘土で覆っているもので、毘沙門古墳と同じです。石室内からは、銀象嵌大刀の大刀2振

大刀

二振りの大刀が古墳から発掘されました



はばき

鐔（つば）を刀身に固定する金具。これにも銀象嵌の装飾が施されていました



鐔（つば）

鐔は「八窓」で、透かし穴の間に境界線を伴わず、扁平な「の」の字形文様を配し、縁辺にも「の」の字形文様を逐一に巡らしています。側面には二重弧線を千鳥にならべています

柄縁金具

（つかふちかなぐ）

柄（つか）の部分の金具にも銀象嵌が施されていました



鍬（やじり）
鍬は、矢に装着するもので相手を射倒すために鋭くなっています。出土した鍬は、鉄製で4本出土しています

出土した金銅製耳環は、現代で言うイヤリングです。金と銅で作られていました。古代の人たちも、こうしたきらびやかな装飾品を身につけていたことが分かります

松本古墳群中
最大級を誇る

八王寺神社古墳

（石打・20区）



DATA ▶形体 前方後円墳
▶大きさ 長さ約75m、後円部直径約45m、高さ6m、前方部直径15m、高さ2.5m
▶備考 ⑨と⑩の古墳で一つの前方後円墳が存在したと考えられている

石打の人々に八王子さまと呼ばれ親しまれてきた八王子神社。八人の王子の墓があったという言い伝えが残っています。戦前は縁日になると相撲大会が行われるほどの場所でした。

八王子神社は古墳の上にたっています。当時、この古墳は石打台地北縁の特に周囲より一段と高まった地形（内部に埋没した砂丘が存在）を利用して、その上に盛り土をし、埴輪をめぐらせたといわれます。6世紀後半ごろ（約1400年前）につくられたものと考えられます。

石打、藤川地区には八王子神社古墳を中心に41基もの古墳が築造されていたといえます。発見された土器片などには、中世のものもあり、文献からみた石打を立証する貴重な資料と思われる。

悠久のときを経て
現れた古代の遺物
発掘調査が行われた古墳からは、
いったい何が出土したのか。
悠久のときを経て現れた
古代の遺物とは…。



古墳番号 神の名で呼ばれし古墳

毘沙門古墳

（大根村琵琶首・10区）



DATA ▶形体 円墳もしくは前方後円墳
▶大きさ 円墳の場合直径35m、高さ約3m、前方後円墳の場合は、長軸75mとなる
▶備考 発掘調査で、形状を明らかにすることができなかった。出土品は、切り子玉など

毘沙門古墳（松本22号古墳）は、中野宇毘沙門の国道122号沿いにある古墳です。毘沙門の地名も、この古墳の上に毘沙門天が祭られていたことに由来しています。毘沙門天は北方守護の神で、インド北方には多くの財宝があるということから、福德の神ともされ、七福神の一つにもなっています。発掘調査は、昭和60年に行われましたが、すでに削られた後だったので、古墳の形態は分かりませんでした。埋葬施設は横穴式石室で、玄室（遺体を置くところ）の平面形は小判形にされていました。石室の材料になった石材は小さく、粘土を河原石で押さえてその外側をまた粘土で覆う形になって

いました。石室からは、金銅製耳環・水晶製切り子玉・碧玉製管玉・土玉・ガラス玉などが出土。これらの出土品から、毘沙門古墳は7世紀後半の古墳と考えられます。

水晶製切り子玉
（すいしょうせいせきりこだま）
そろばんのような形をした水晶製の切り子玉。古代の人はアクセサリーとして、身につけていたと思われます

玄室 遺体を置くところ。小判形で、石室の材料になった石材は小さく粘土を河原石で押さえて、その外側をまた粘土で覆う形

文化財から 歴史を知る

身近な町の歴史の教科書

「戦国武将ブームに負けない歴史がある」

松本古墳群から出土した銀象嵌大刀をはじめてとした貴重な町指定重要文化財について、「まずは町民の皆さんに知ってもらう」、これが一番重要だと思います。そのためきつかけづくりが必要です。

その取り組みの一つとして、最低でも年に1回は文化財展などを企画して、広く町民の皆さんに、直接文化財を見てもらう機会を提供していきたいと、考えています。実際に直接見てもらえれば、町の歴史に対する感じ方も、今までとは変

松本古墳から出土した銀象嵌大刀をはじめ、多くの文化財が町にあるということ、ぜひ町民の皆さんに知ってほしいです。教科書に載っている歴史だけでなく、日本の歴史という大きな流れの中にも、邑楽町の歴史があるということを感じてほしいです。

インタビュー

生涯学習課
(文化財担当)

森戸栄一さん



目で見える文化財 必見！大刀のレプリカ



役場庁舎2階の生涯学習課フロア近く、精巧に作られた「銀象嵌大刀のレプリカ」が展示されています。町民の皆さんに、少しでも気軽に文化財にふれてもらおうと、設置されたものです。役場にお立ち寄りの際は、ぜひご覧になってみてください。



見て感動！知って納得



邑楽町の文化財(冊子)
邑楽町教育委員会では冊子「邑楽町の文化財」を作成。町指定の重要文化財についての説明も出ています。

文化財についてのお問い合わせは...役場生涯学習課 ☎ 47-5043



銀象嵌大刀を始めとする歴史的に貴重な文化財。今後、文書館の展示の予定はあるのか、町民の皆さんにアピールしていくのか、生涯学習課の森戸さんに、お話を伺ってきました。

次の世代に引き継ぐ歴史

「知ってもらう」きつかけづくりの取り組み

現在、文化財保護調査委員5人から成る町の文化財保護調査委員会でも、町民の皆さんに、少しでも文化財に興味を持ってもらいたいと考えています。それぞれの専門的知識を生かした企画も検討中です。その一環として、広報おうらJOYのページに「大好き文化財」というコーナーを設けました。

また、大塚文化財保護調査委員を講師に長柄公民館主催で、「我が町おうら文化財探訪ツアー」も行われたところです。今後は、次の世代を担う若い人たちに、ぜひ、町の歴史を知ってもらいたいと思います。仕事の終わる時間帯や、土日に合わせた講座などもできればと考えています。さらに町内には、町指定や県指定に値するような文化財が存在します。今後これらの指定について、文化財保護調査委員のアドバイスを受けながら調査・研究し、文化財の価値を多くの町民の皆さんに知っていただきたいと考えています。

文化財を知ってもらうきつかけづくり 我が町おうら文化財探訪ツアー開催

長柄公民館
講堂開講中



我が町おうら文化財探訪ツアーは、町内の有形文化財を巡る学習と講義を行います。計3回の学習と講義などを予定

パティン遺跡出土
天目(てんもく) 茶碗



参加した人たちは、熱心に講義に聴き入り、歴史的に大変貴重な町の文化財にふれることで、その息吹を感じていました



↑講師を務めた邑楽町文化財保護調査委員の大塚さん

深緑に眠る、松本古墳 それは、邑楽町に宿る 古代史の1ページ…。

取材を終えて

今回のテーマを選んだきっかけは、幼いころに見た古墳のことをふと思い出したことでした。松本古墳の取材を進めていくうちに、現在自分の住んでいる地域のはるか古代の姿を知ることができました。

幼いころに見つけた小さな丘。今になってわかった過去の邑楽町の姿など、この取材を通じて、いろいろなことを知ることができました。また、出土した品々を目にするという非常に貴重な体験をさせていただきました。取材に快く協力いただいた皆さん本当にありがとうございました。

最後に松本公園の裏には、今も多くの木が生い茂りその中にぼつんとある丘。非常に歴史的価値がある古墳群の一角がそこにあります。皆さんも一度目にしてみてはいかがでしょうか。見たときの感想はこんなものかと思うかもしれません。

けれど、それは千年以上も前にここに住んでいた先人たちを祭っているものであり、現在邑楽町に住んでいる私たち一人ひとりの貴重な財産なのです。

街角特派員 岩松雄志

参考文献

邑楽町の文化財
目にある邑楽町の自然と歴史
松本古墳群調査報告書
邑楽町古墳群調査報告書
邑楽町古墳群調査報告書
大塚孝志さん